昭和8年3月3日から70年目
恐ろしい大津波忘れないで

昭和８年の三陸大津波で大惨事となった太田名部「三陸大津波の写真（２枚組の２）」（写真：ふれあい交流センター郷土資料展示室から）

昭和八年三月三日（北海道と岩手県三陸沿岸を襲い、地震と津波による死者三千六十四人をもたらした）は、村民百三十七人の尊い人命と財産を奪った三陸大津波襲来の日、村ではこの恐ろしい津波の記憶を風化させないために、毎年住民参加型の津波訓練を行っています。

三月三日、午前六時三十分、震度５に相当する地震が発生、直後に津波警報が発令されたという想定で訓練を開始。訓練には住民約五百二十人が参加しました。今月号では、今年で七十年目の節目を迎えた昭和八年の三陸大津波を教訓として、津波についてお知らせします。

昭和８年三陸大津波の教訓が刻まれた塔の前に立ち、津波の恐ろしさを再認識する太田名部の太田ひとみさん（32歳・右）と拓也くん（普代小2年）親子